

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
 第117回放送の概要 (2017年1月28日放送)

パーソナリティ
 たろう
 (佃 由晃)
 なか
 (中嶋邦弘)
 かりん
 (妹尾優香)
 あな
 (岸本幸恵)



ミキサー
 門ちゃん
 (門田成延)

会計
 小山俊則

相談役
 わだかん
 (和田幹司)

**1. ゲストコーナ (1) 片山倭瑞実さん (102 陽会)、
 河野真紀さん (82 陽会)、浅原奈緒子さん (69 陽会)**

片山さんは兵庫高校では初めての女性生徒会長です。生徒会長を目指したのは、中学時代から部活の部長や生徒会長をしたいと思っていた。中学は転校が続きタイミングがあわなかった。高校では是非にと思っていた。高校入学後の最初のイベントで、生徒会長が金髪にサングラスそしてアロハシャツと派手な色のズボンで登場し、生徒会旗を持って「ゆうかりの葉」を演じ、何という学校だと思ったが、とてもかっこよかったので同じことをやりたいと強く思い、1年生から生徒会に入り、2年生で生徒会長になった。



生徒会役員



生徒会旗を振る生徒会長

入学当初の1年生では凄く真面目であったが、その後、時には奇抜な格好で登校するようになった。それはフリルのついたロリータファッションで、自分でデザインし、既製服をアレンジして登校した。中学までは地味な服が好きで、ピンクやフリル、柄は嫌い、好きな色は黒、紺、茶色のみであった。好みが変わったのは、高1の時に出生地である東京に行った時、絵を描く参考にするために色んな人の服を見ていた。

当時の春のトレンドがピンクのフリルチュールスカートで、自分もそれを取り入れようと思い、似たチュールスカートを買ったのが最初で、それからどんどんピンクやフリルのスカートに変わっていった。

言葉は標準語に近い。中学 3 年の時に神戸に来たので神戸は 6 年程になる。学校に最初にロリータファッションで登校した時の周りの最初の反応は「ギョエー」「なんだあいつ」であったが、皆は楽しんでくれ、ハロインの時であったのでお菓子を配ったこともあり、楽しい奴が来たなという受け入れられる空気を感じた。



私服



着こなし制服



時々通学着（ロリータ）



文化祭ファッションショー



ハロウィン



構想スケッチ

兵庫高校を選んだ理由は、はじめ夢野台高校の演劇部が部員がいなくなって 2 年経過しており、次に入部者がいないと廃部になると言う事を知り、演劇が好きで部員がいないとすぐに部長になれると思い、夢野台高校に行こうと考えた。兵庫高校の先輩から演劇部は高 3 しかいないのでピンチと聞き、それならば兵庫高校で部長になろうと考えて入学した。そして演劇部に入り、2 年では美術部を兼部した。

生徒会長としての大きな取り組みは、生徒会が全てを仕切る4月に行われる新入生歓迎遠足の場所を変えた事である。これまで3年周期で動物園、水族館、公園を使用していたが公園を変更してほしいとの意見があり、変更した事である。

3年間の高校生活を過ごした感想は、兵庫高校に行かなかっただら学校に行っていなかったと思えるくらいとてもよかったと思っている。最初に思い浮かぶのは自由であること、しかし好き勝手をしてよいのではなく、ロリータファッションをしても許容されたのは、生徒会の仕事などやるべきところはやっていたからと思う。メリハリがよかったからと思っている。先生は無駄に参与してこなかった。しかし助けてほしいと思った時は親身になって助けてくれ、勉強の質問も休み時間ぎりぎりまで嫌な顔一つせず、わかるまで教えてくれた。素敵な先生方でした。

卒業後、北神急行のマスコットキャラクター「北神弓子ちゃん」を始めたのは、会社がコスプレをして物販や広報をする人を探していたのでお手伝いすることにしたものです。アニメのキャラクターが人間になったのは電鉄会社では初めてで、電鉄会社の萌えキャラは多いが、コスプレをして実写化したのは初めての試みであったので注目された。広報のため、イベントやラジオ、新聞などのマスメディアに出演した。歌ったり踊ったりすることはなかった。巫女さんの衣装などは自作が前提で頭の髪飾りには苦労した。はじめはボランティアということであったが報酬も少しあり、服装やウィッグの費用に充当した。北神急行谷上駅の車庫で行われるイベント、阪急フェスティバルのイベントなどでマスコットキャラクターを見ることが出来ます。北神急行のプロモーションビデオに片山さんが主演されています。これはyoutubeで「恋のトンネルPV」「恋のトンネル北神急行」で検索すると見ることが出来ます。素敵な歌詞とメロディが楽しめます。ストーリーは北神急行を使う男女の高校生の恋の話で、女の子が一目ぼれし、一緒にいられる時間は北神急行に乗っている1駅間しかないというものです。



北神弓子ちゃん



恋のトンネルPV

高校卒業後は、大学入試に失敗したので浪人をしていました。自分に向き合うと、大学にいきたいとは思っていないと気づき、フランス、イタリア、スペイン、オーストラリア、台湾に旅行し見聞した。フランスは行く前の期待が大きかったが、思っていたのは違うマイナスの面を感じた。鼻の高い人が多く居心地が悪かった。その後行ったイタリア、スペインは期待していなかったが凄く優しかった。イタリアは昼間店はあいておらず、店員は踊りながらジュースを提供したりしていた。名所旧跡を見るのではなく赴くままにぶらぶら歩き廻っていた。父親の友人を頼ってフランス、イタリアを訪問出来たので、好きなファッション関係の人に話を聞くことが出来た。台湾は最南端の懇丁に行ったが、とても素敵な所で皆さんに行ってもらいたい場所です。

2. ミュージック：東北と神戸をつなぐ歌「充（みち）」

作詞：玉津中学校 66 回生、作曲：PASSION OGURA、この曲は「音楽事務所オフィス魂（KON）」のご厚意でお送り致します。

3. ゲストコーナー（2）

幼少期の片山さんはやんちゃな子であった。親に聞くと、家にあった大事な物をどんどん壊していく破壊魔だったようです。兄弟は長女、次女、長男そして末っ子が片山さんです。子供の頃はよく入院していたので、爺ちゃん、婆ちゃんとの関わりが多く、老人ホームにボランティアに行きたいとずっと思っていた。画用紙に「かたやまいずみ 女 ○才 おじいちゃんおばあちゃんのためにがんばりたい」と書いて母親に面接してもらっていた。

片山さんのお父さんは国籍が韓国で片山さんも同様のため、20 歳になったが日本での選挙権はないそうです。お父さんは、知る人ぞ知る有名な元モーターサイクル・ロードレースライダーの片山敬済（たかずみ）さんでワールドカップで優勝されています。家庭での子供の育て方は一般家庭とかなり異なっていました。自己主張、自分が何をしたいかをはっきりするように言われ、言いずらくて何でもいいよはダメと言われた。自分の意見として一緒がいいという場合は認めてくれた。別に誰とでもはだめで、自分で考えて主張するように育てられた。子供の考えを尊重してくれる家庭であった。食事を作るお母さんは、皆の好みを出来る限り取り入れるようにしていたので大変だったと今聞いている。1 時期はお婆ちゃんを含め 7 人家族だったので大変で、ご飯は毎食 4 合炊いていた。自分が主張した事には責任が伴う事を今は自覚している。親はいつも暖かく見守ってくれて、悩んだ時、つまずいた時はどうしたの、こうすればなど相談に乗ってくれるので暖かい家族と思っている。お父さんが世界で活躍されたことも関係しているのかもしれない。

高校生活については、自己表現をし続けないと自分ではないと思っていたので、人の眼は気になりつつも自己表現が出来たので凄く楽しめた。今は新たな自己表現を見つける為に海外を見聞し、吸収しているところである。訪問先の風景のスケッチを描くことも自己表現の一つと思っている。

自己表現をしている時は他人の眼はいつも気になるが、気にしすぎると自由に生きていけないし、心が重くなる。心が重くなるのは一番嫌な事なので、自分に正直に、人の眼を気にしつつもあまり気にせず自由に生きたい。気にしすぎる人は周りに多いがもったいないと思う。気にして閉じこもる人は心地がよけ

ればそれでいいと思う。もっと自分を表現したいと思う人は、自分の経験からは、知らない人でも挨拶をすることが大事と思い取り組んだ結果が今表現できることに繋がっている。悩んでいる人はおはよう、こんにちはなどの挨拶を続けなければ怖がらずに発信出来ることに気づく。

子供の頃は何も考えずに挨拶が出来ていた。ある時期になると挨拶がしにくくなる。転校し友達がまだいない中2の夏に挨拶を始めようと思い、朝早く登校し一人目、二人目には挨拶出来るが増えてくると挨拶がしづらくなる。そのような日が1～2週間続くことがあった。粘り強く続けると返事を返してくれるようになり、大丈夫という安心感が生まれた。挨拶は小さなきっかけであるが出来ると何かが変われると思う。

河野さんがガールスカウトでオーストラリアに行った時、日本では挨拶しても返してくれないと悶々と思っていたが、オーストラリアでは皆が笑顔で受け入れてくれた。片山さんは相手が自分の事をどのように思っているかわからない時は、相手はプラスの事を思っているようにしている。

高校2年の時に自分はセクシャルマイノリティ（セクマイ）に入ると思った。

（注）セクシャルマイノリティはLGBT（レズ、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）で女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、生まれたときに法律的、社会的に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人。

片山さんは自分の「女」という性に違和感を持っていたのでどちらでもない「X」に変わりたいと思っていた。セクマイに気付いた時、当時好きな女性がおり、それまでは悩んだことはなかったが、自分がマイノリティと認識すると好きと言えなくなり、人から見たら普通の事ではないと思い悩み、自分は女性の体で生まれたが実はXであると認識し、自分の体に違和感を覚えた。今は以前に比べるとオープンになり、行政も企業も理解が少しづつ進んでいる。日本ではセクマイの方は7.6%とされている。クラスに1～2人といわれているが、実際は自分で認識してない人がいるのでもっと多いと思われる。片山さんは今はマイノリティとは思っていない。

セクマイに悩んで自殺までされる方がいるので、周囲の対応の仕方が大事になってくる。友達からカミングアウトされた時びっくりし対処法がわからないと思うが、その時はその人を受け入れてあげることが大切です。意見を言う必要はなく、そうなんだ、何を言えばいいのかわからないがあなたの事を受け止めるよなど、思っている事を素直に言ってあげることでよい。河野さんは大学同級生が周りの噂（あいつは男だけど男が好きな変な奴）でゲイであることを知り、凄く興味を持ち、しゃべると楽しく、女心をわかってくれる人で、今は親友になっている。河野さんはその人といると男性ぽくなっているのでトランスぽいということになる。女子中、高では友達同士のラブレター交換は普通であると聞く。

片山さんは小学校が女子校で、女性同士の恋愛はいたって普通のこと、それが世間ではセクマイというのを知ったのが高2の時、普通のことと思っていたことがそうではない事を知ったことで悩みが生まれた。「あいつは変な奴」という言葉に引っかかりを感じる。そのように言われると当事者にとってはショックなこと、悲しいことである。意識せずに軽はずみの気持ちで言うことがその人を傷をつけるの

で、偏見を持っていないのであれば「男が男を好きになる、そんな奴もいるんだ」と考えてほしい。

河野さんは変な奴という言葉に偏見を感じ、その人に寄り添いたいと思った。妹尾さんの娘さんの友達も男であるが心は女で、娘さんはその人と2人で女友達と行く感覚で旅行に行く。豊かな友人関係が生まれる。「変な人」と言うのはセクハラ表現になる。義務教育の期間にLGBTについて教える必要がある。何も知らない子供のストレートな言葉は人を傷つける。今悩んでいる人は、自分を否定せず、ありのままの自分でいいと自分を認めてほしい。話をすることで自分と同じような人がいることに気づくことができ、安心感が生まれる。人に話すことで仲間も出来る。

アメリカではホワイトハウスのウェブからLGBTと環境問題が問題なしとして削除された。日本では天下り問題で辞任した前川事務次官が、職員宛メールで「ひとつお願いがあります。私たちの職場にも少なからずいるであろうLGBTの当事者、セクシュアル・マイノリティの人たちへの理解と支援です。無理解や偏見にさらされているLGBT当事者の方々の息苦しさを、少しでも和らげられるよう願っています。様々なタイプの少数者の尊厳が重んじられ、多様性が尊重される社会を目指してほしいと思います」とつづっているそうです。

日常的に男、女の別を記載することが多い。セクマイの人を考慮した様式が出来ればと思う。多様性(ダイバーシティ)が認められる社会になってほしいと思います。

4. 地域瓦版

神戸港は平成29年1月1日に開校150年を迎えました。市立図書館において神戸開港150年展を3月28日まで開催しています。展示期間は図書館によって異なります。

5. エンディング

本日のゲスト片山さんの今後の抱負について、今年は自分を高めたいと思っている。身につけられるスキルを色々吸収し、次のステップアップのための土台を作りたい。目標はお父さんの片山敬済さんを追い越すことです。片山さんは兄弟の中では一番お父さんに似ているそうです。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukarihyogo.jp/>